

## 「人生を変える魔法の言葉」北原照久

「なんでも鑑定団」で有名な北原照久氏の言葉「致知」11月号に載っていたので紹介します。

66年の人生を振り返ってみると、私はこれまで思い描いていた夢をすべて実現させることができている。17歳の時に憧れの加山雄三さん、吉永小百合さんに会いたいという夢を持った。その後、20歳の時にフォードの高級車・サンダーバードが欲しい。おもちゃの博物館をつくりたい。30代では豪邸に住みたい。「そんなの無理だ」ほとんどの人からこう言われた。誇大妄想狂やほら吹き、オオカミ少年と揶揄(やゆ)された。ところが、37歳の時、横浜にブリキのおもちゃ博物館を設立し、47歳の時、5百坪の豪邸を、50歳の時の誕生日にサンダーバードを手に入れ、52歳の時に加山さんと、還暦の年に吉永さんとお会いすることができた。いまでは周囲から「世界的なおもちゃコレクター」と称されるようになり、6つの博物館を経営し、年間150本の講演、累計71冊の著書を出すまでになったのである。

なぜこうも運よく夢を実願させることができたのか。そう考えた時、私の中に一つの答えが浮かび上がった。「すべては出逢いである」人との出逢い、ものとの出逢い、そして言葉との出逢いが、自分の人生を良い方向に導いてくれたと思わずにはいられない。

私は1948年、北原家4人兄弟の末っ子として生まれた。上の3人は皆、近所でも評判になるほどの秀才だった。それに対して私の成績は体育を除いてオール1。親は寛容だったが、学校の先生からは常に兄たちと比較される。このことが勉強嫌いに一層拍車をかけた。(略)

中学3年の時、ある事件で退学処分を食らった。落ち込んでいた時に母はこう言ったのである。「お前の人生はこれで終わったわけじゃない。これから先の人生の方がずっと長い。だからめげることないよ。人生はやり直しはできないけれど、出直しは何時でもできる。」この母の言葉は、そのままダメになってしまいそうなわたしを救ってくれた。高校に進学したものの1学年8百人のうち、成績はどん尻の8百番。ここでもすばらしい先生との出逢いが劣等感の塊だった私の人生を変えてくれたのである。<続く>

「なんでも鑑定団」は私の好きな番組の一つです。それぞれの専門分野の鑑定員が作品を見ただけで、その作者や年代、背景まで分かることに驚愕(きょうがく)します。北原氏は、おもちゃに関しては何でも知っていて、その博識ぶりに感嘆しています。その北原氏がどのようにして自分の人生を築いてきたか大変興味がありました。前段は、北原氏が落ち込んでいた時の母の言葉に救われましたが、次はどんな出逢いがあるのでしょうか。楽しみですね。

### 「魂を伝承する」

渡部昇一氏がある雑誌に豊臣秀吉のことについて書いていた中の言葉を紹介します。「人は心底尊敬した人物から知らず知らずのうちに多くのものを学ぶ。学者でも偉い先生に心底から尊敬している弟子は器量がどんどん大きくなる。しかし、先生を批判したり表面的に奉(たてまつ)るだけだと成長は止まる」剣道でも、「弟子は師の剣風に似る」と言われています。弟子は師を尊敬して、師のようになりたくて、一生懸命師の真似をする中で技術を学び、その中で人間性も磨かれていったのだらうと思います。真の師を見つけたいですね。